

## 京都大学大学文書館の紹介

京都大学大学文書館 清水 善仁

### 1. はじめに

京都大学大学文書館（以下、当館）は6年目の夏を迎えている。平成12年（2000）11月の設置以来、大学の事務本部や各部局より移管された非現用法人文書、あるいは『京都大学百年史』の編集過程で収集された資料をはじめとする京都大学の歴史に関する個人や団体の資料などを中心として、鋭意、調査や整理をおこなってきた。この間、平成15年12月に百周年時計台記念館歴史展示室における常設展示「京都大学の歴史」を開始し、平成16年4月には閲覧業務を開始した。またこの他にも、大学史・高等教育史をはじめ、大学アーカイブズに関する調査・研究活動などを積極的におこなっている。

「京都大学大学文書館の紹介」と題したこのコラムでは、こうした当館における日常の主な業務の概要を述べると同時に、6年目を迎えた当館が抱えている課題についてもあわせて触れておきたい。そのことによって、京都大学大学文書館の現在を紹介することができればと思う。

### 2. 日常の業務

#### 2.1 資料の収集

当館では、非現用法人文書をはじめ、学内刊行物や図書・雑誌を継続的に収集すると同時に、京都大学の歴史に関わる個人や団体からの資料の寄贈・寄託も受け付けている。このうち非現用法人文書は、事務本部・各部局で作成されたファイルのなかで、保存期間が満了したすべてのファイルが、原則として毎年移管されることになっている。1年につき約5,000～6,000点のファイルの移管を受け、その上で、移管されたファイルのリストと現物との照合作業をおこなっている。

#### 2.2 資料の評価・選別

評価・選別は当館の最も重要な業務の一つであり、毎年、各部局から移管されたファイルに対して評価・選別をおこなっている。平成17年度はこの作業によって、約9,000点のファイルを廃棄した。これは、当館が保存する各部局よりの移管ファイル全体のおよそ37%に相当する量である。なお、この点については後の課題のところでも改めて詳しく触れることにする。

#### 2.3 資料の整理・保存・公開

移管を受けたファイルは当館の書庫に配架され、整理作業すなわち目録の編成・記述を

おこない、その上で公開される。その過程では、公開前の個人情報の確認という重要な作業がある。移管を受けたファイルのなかには、ある個人に関わる様々な情報が記載された資料を含むものが少なくない。氏名や住所はもとより、学歴や職歴、あるいは家族構成や健康履歴に関する情報などである。そのような情報＝個人情報に記載された資料を公開することによって、その個人に重大な影響を及ぼすと考えられる場合、それらを保護する必要性が浮上する。具体的には、マスキングや袋がけという処置であり、あるいは非公開という判断である。こうした個人情報を公開前に確認することは、当館として不可欠かつ重要な作業である。そのような作業を経て現在公開されている資料は、非現用法人文書が5,021点、個人資料が2,314点である。なお、閲覧可能な資料の目録については、当館のホームページでも見ることができる。

## 2.4 資料の展示

はじめにも少し触れたように、当館では常設展示「京都大学の歴史」をおこなっているが、年に1～2回、2～3か月の期間で当館所蔵の資料を中心とした企画展示もあわせて開催している。最近では、平成17年1～2月の「総長の肖像画」、平成18年1～4月の「京都大学における「学徒出陣」」が挙げられる。

## 2.5 調査・研究活動

当館では、大学史・高等教育史ならびに大学アーカイブズに関する研究をおこなっている。特に後者、大学アーカイブズに関する研究では、現在、科学研究費補助金（基盤研究（B））「大学所蔵の歴史的公文書の評価・選別についての基礎的研究」（研究代表者：西山伸・京都大学大学文書館助教授）において、京都大学のみならず多くの大学や機関から参加者を得て、活発な議論が展開されている。またこうした調査・研究活動の成果は、当館発行の『京都大学大学文書館研究紀要』や『京都大学大学文書館だより』にも反映されている。

## 3. 現在の課題

以上のような当館における様々な日常業務の遂行過程で、我々は日々多くの課題に直面し、それらに対する解決方法を議論し模索し続けている。そこでこの項目では、現在、当館が抱える課題について、特に2点に絞って論じてみたい。

### 3.1 非現用法人文書の評価・選別

日常業務のところでも少し触れたが、当館では平成16年度から非現用法人文書の評価・選別を始めている。昨年度の成果は先に示した通りだが、今年度もまもなく評価・選別をおこなう予定である。評価・選別は、保存か廃棄かという判断に多くの困難をとまなうものであり、したがってそれをどう解決するか、これまでに多くの議論がなされてきたところである。ただ、評価・選別作業にあたって一つ言えることがある。すなわち、目の前の数多のファイルをただそのままに残しては、書庫はすぐ満杯になってしまう。したがって、京都大学における様々な営みが詳細に記録された資料が、将来の京都大学にとって、その当時の姿や活動を反映する、いわば証拠となるような内容のファイルを残していくことが重要であり、基本的にはそうした視点からの評価・選別でなければならないというこ

とである。そしてそこにこそ、当館の存在意義があり、かつその力量が問われるところであると思う。そのためには、自治体の文書館などで採用されているような評価・選別の方法（２段階の評価・選別、評価・選別自体の記録の作成と保存など）や先記科研費研究会の議論を参考にしつつ、当館における評価・選別方法の検討を重ね、これからの作業に取り組んでいかなければならないと考えている。

### 3.2 目録の編成と検索システムの構築

現在、当館ではデータベースによる検索システムを開発していない。利用者が当館所蔵の資料を検索しようとする場合、Microsoft Excelのフィルタ機能を使ってのみそれができる。それでもある程度検索機能を果たすことは可能であるが、より効率的な検索を望む場合、データベースの構築は課題の一つである。

同様にそれは目録の編成・記述でも指摘できる。現在公開している当館の目録では、移管元の部課を基礎としてシリーズ単位による編成がなされている。例えば総務部総務課の文書であれば、「科学技術研究調査」「学内達示書類」「総長挨拶原稿」などに分類され、そのシリーズに該当するファイルが配列されている仕組みである。この問題を検索との関連から提起するとすれば、現在の目録には解題や解説がないため、各シリーズがどのような性格のものなのか、目録を見ただけでは判別しがたいということがある。例えば、先記の総務部総務課文書であれば、「文部省往復書類」「文部省開申上申書類」「文部省伺指令書類」「文部省内訓例規書類」「文部省報告書類」「文部省令達通牒書類」と似たようなシリーズ名が多く並び、それぞれがどのように異なるのか、一見しただけでは分からない。もちろん、各シリーズのファイルの一つひとつ見ていけばその違いは判然とするのだが、目録は利用者にとって目当ての資料へと導く手助けでなければならず、そのためには解題を設けて、各シリーズの解説をおこなうことも不可欠な作業といえる。

## 4. おわりに

以上、ごく簡単にではあるが、京都大学大学文書館の現状と課題のそれぞれについて記してきた。これまで述べてきたような日常業務への対応や課題解決への模索を通じて、我々は現在保存管理している（あるいはこれから保存管理しようとする）文書を、10年後、100年後の京都大学、ひいては人類・社会に、どうすればよりよい形で伝えていくことができるかということを念頭に置きながら日々の業務をおこなっている。京都大学の記録遺産＝アーカイブズを未来に継承する役割を担う存在として、これからも京都大学大学文書館の果たすべき役割は小さくない。



平成18年4月1日現在

## データシート

- ・機関名：京都大学大学文書館
- ・所在地：〒606-8501京都市左京区吉田本町
- ・電話 / FAX / E-mail：075-753-2651 / 075-753-2025 / archiv52@mail.adm.kyoto-u.ac.jp
- ・ホームページ：http://kua1.archives.kyoto-u.ac.jp/ja/
- ・交通：徒歩 / 京阪出町柳駅から徒歩10分  
バス / 京大正門前または百万遍下車すぐ
- ・開館年月日：平成12年11月1日
- ・設置根拠：京都大学大学文書館規程
- ・組織：館長 | 研究部門  
運営協議会 |

事務部門（総務部総務課）

- ・建物：百周年時計台記念館・楽友会館・近衛館  
延床面積 1,821㎡ 書架延長 約6,300m
- ・収蔵資料の概要（平成18年4月1日現在）：  
移管法人文書 約50,000冊 図書・刊行物 約12,000冊  
個人寄贈・寄託資料 約50,000点
- ・開館日数 / 閲覧室利用者数（平成17年度）：228日 / 759人
- ・主な事業（平成17年度）：

### 1. 資料の収集

- ・事務本部・各部局非現用法人文書の受け入れ
- ・学内および関係諸機関印刷物の受け入れ
- ・個人資料の受け入れ

### 2. 資料の整理

- ・資料目録の作成
- ・写真資料の整理
- ・各部局移管の非現用法人文書の評価・選別

### 3. 資料の公開

- ・所蔵資料の公開

### 4. 調査・研究活動

- ・『京都大学大学文書館研究紀要』第4号の発行
- ・京都大学における「学徒出陣」に関する調査・研究

### 5. 広報・教育活動

- ・展示「京都大学の歴史」の開催
- ・展示「京都大学の歴史」図録の発行
- ・企画展・テーマ展の開催
- ・『京都大学大学文書館だより』第8号・第9号の発行
- ・大学文書館ホームページの更新

### 6. その他

- ・オープンキャンパス2005への協力
- ・他部局の企画展示室の利用
- ・新採用職員研修への協力
- ・他機関への資料の貸出
- ・科学研究費補助金（基盤研究（B））「大学所蔵の歴史的公文書の評価・選別についての基礎的研究」にもとづく研究

